

1.7 3学期始業式 校長講話

令和3年が始まりました。
今年もよろしくお祈りします。

2学期の終業式で、みなさんの学校評価から伸びている点をお伝えしました。
今日は、別の質問についてふれたいと思います。

それは、

- ①自分にはよいところがある。
 - ②友だちは自分のよいところを認めてくれていると感じている。
 - ③先生は自分のよいところを認めてくれていると感じている。
 - ④お家の人は自分のよいところを認めてくれていると感じている。
- という質問です。

これらは「自己有用感」に関する質問です。

「自己有用感」とは、自分のよさを自覚するとともに、そのよさを仲間・先生・家族から認められた時に飛躍的に高まるといわれています。

また、「自己有用感」が高まると、学力にもよい影響を及ぼすことが期待されています。

この中で、「そう思う」「だいたいそう思う」という肯定的な回答が高かったのが、④の「お家の人は自分のよいところを認めてくれていると感じている。」という質問でした。大変ありがたいことだと思えます。

次に高かったのが、②の「友だちは自分のよいところを認めてくれていると感じている。」で、それと同じくらいで③の「先生は自分のよいところを認めてくれていると感じている。」という質問に対する回答でした。

学校としては、③の「先生は自分のよいところを認めてくれていると感じている。」という質問に対して、「そう思う」という生徒をさらに増やしたいと思っています。

ここで、一緒に考えたいことは、①の「自分にはよいところがある。」という質問に対して、肯定的な回答が他の質問の回答に比べて低いことです。

「そう思う」生徒が、20%、「だいたいそう思う」生徒が47%、合わせて67%でした。1学期に比べると少し増えているのですが、まだ高いとは言えません。

日本人は、謙遜すること、自分を控えめに主張することが、美德（いいこと）とされている影響かもしれません。

しかし、自分のよいところを認め、もっと自分を大事にしてもいいと思います。

お互いに「世界で一人しかいない かけがえのない存在」なのでから。

私、興にも、十分でない点がたくさんあります。

自分としては、うまくいかない部分や、あまり好きでない部分も、自分なので、そういった部分も合わせた自分を大事にしてほしいと思います。

授業や友だちとのかかわりの中で、「自分にはよいところがある」という質問に対して自信をもって「そう思う」という人が増えてくるといいと思います。

そして、自己有用感を身につけ、自分のよさを生かして人の役に立とうとする人が、ますます増えていくといいと思います。

中学校では、令和3年度から学習指導要領が新しく変わります。
これは、学校教育を通して身につける力を示しているものです。

これからの学校教育では、次の3つの観点が重視されています。

- ①生きて働く知識・技能
- ②未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力
- ③主体的に学習に取り組む態度

これは、資質・能力を育成する教育の3つの柱といわれています。
この教育のために重要なのが、「主体的・対話的で深い学び」です。
それは、みなさんが、現在取り組んでいる対話を基盤とした授業で創られるものです。
その対話から深い学びが得られます。

今までのように、自分の知らない知識や技能を身につけるだけの受身的な学習では対応できない時代に求められている力です。

その学習の評価も、生徒のみなさんが自分たちの学びを改善できるもの、先生方が指導の改善に生かせるものにするのが求められています。これにつきましては、今後研究を深めていきます。

3学期は、48日間です。
この短い学期は、みなさんが次のステップに進むための準備期間です。

1年生は2年生・「先輩」に、2年生は3年生・「最上級生」に、そして3年生は卒業・「新しい生活」に進む準備の時間です。
それは、自分の責任において進めないといけません。成功のためにはいい準備が必要です。
仲間と一緒にいい準備を進めましょう。

終わります。